

知っていますか？
この言葉

SDGs (エスディーズ)

2015年の国連サミットで、国連加盟国が2016年～2030年までの国際目標として「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)を採択しました。「極端な貧困のない世界の実現」「持続可能な世界実現の道筋をつける」ために17の分野別目標と、169項目の達成基準が盛り込まれています。

昨年の7月にピコ太郎さんが国連本部に行き、SDGsをPRしました。マスコミの説明不足のためか、内容については「わからない」という人が多いようです。

17の目標のうち13番目に「気候変動に具体的な対策を」とあります。近年の気候変動の分野では一昨年11月にパリ協定が批准されました。これは地球を保護し、異常気象の脅威から私たちの生活と将来の世代を守る持続可能な国際的な取り組みです。

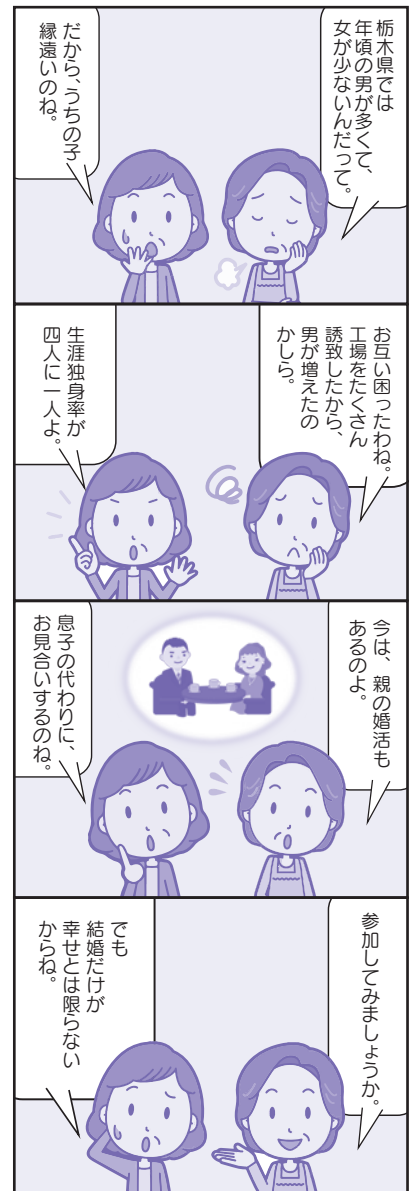
5番目として「ジェンダー平等の実現」があります。多種多様な社会が存在するために最も実現が難しい目標と考える人も多くいます。ジェンダーは「性差」と訳されますが、生物学的な言葉ではなく「男らしさ」や「女らしさ」のような社会的言葉として使われます。女性は抑圧されて、社会では認められなかったという歴史があります。

日本でも政府は女性の活躍のための方針を様々打ち出して、女性活躍推進法が施行され、企業にも女性の働きやすい環境や昇進を認めることが義務づけられました。

一般的な現状を見ると、共働きの場合、まだまだ女性の側に家事育児の負担が重過ぎる場合が多いようです。家庭や社会全体で真の意味で「ジェンダー平等の実現」を目指していきたいところです。



代わりに婚活？編



ちになります。

私たちが快適な生活をする陰で、不遇な子どもたちがいることを思い浮かべていただけたらと思います。また救いの手を差しのべるいくつかのNGO団体ができただけで、一条の光がさしたようでも、イルを送りたい気持ちになります。



むかし我が国では「稚奉公」や「年季奉公」といい、幼いときから働かされる子どもたちがいました。テレビドラマ「おしん」の世界といえばわかる方もいらっしゃるでしょう。物があふれ、飽食の現代では想像がつかないと思います。世界に目を向けると、幼いうちから生計のためゴミの山をあさったり有害物質が発生する高山や、コーヒー、紅茶や綿花などの農園、狭く暗い部屋で絨毯を織るなど一億五千万人の子どものうち働いているといわれています。学校にも行けず、読み・書き・計算などの基礎学力はおろか、字の読めない子もいます。

こうい

